

# AKITA Biz Forest

あきたBizフォレスト TOPインタビュー

## TOP INTERVIEW

株式会社秋田ケーブルテレビ  
代表取締役社長 末廣 健二氏

1961年兵庫県神戸市生まれ、大阪大学工学部土木工学科卒業後1984年に日商岩井株式会社(現双日株式会社)に入社、2000年4月以降数社の社員や取締役を経て、2013年株式会社秋田ケーブルテレビに、2019年より代表取締役社長に就任し現在に至る。



## 秋田犬はポテンシャルの高い秋田の大きなブランド財産

**工藤** 本日はよろしくおねがいがいたします。早速ですが末廣社長の生い立ちと経歴を簡単にお聞かせ下さい。

**末廣** 1961年神戸生まれで実家はタバコ屋です。高校まで神戸で過ごし大学は大阪大学に進学しました。子供のころは少し変わっていた子だったのかなあ？普通に考えたらおかしいのに、みんなが言うのが正解？みたいな感覚がすごく嫌で、疑問に思ったことはこれでいいの？とすぐ口にしていました。多数意見に同調しにくい子でしたので、通知票にもよく協調性がない。と書き続けられました。笑。その後1984年当時の日商岩井に入社し、はじめは東京大阪勤務などを経験しましたが、その後は子会社への出向や単独プロジェクトなどを任せられるようになりました。組織としては扱いにくい人材だったのかな？と思います。子供のころからのスタンスは変わっていませんでしたので、相変わらずこれでいいの？って言ってました。笑。その後も海外建設、情報通信支援本部などの他、ジュリアナ東京のマネジメント、海外不動産の撤退、事業創生、医療機器製作会社の立ち上げ、ゴルフ場のマネジメント、それこそ起業家への出資やスタートアップ支援など、経営全般に関わる仕事を中心に、その都度、私なりにやりたいことの枠を少しずつ勝手に広げて自由にやらせてもらっていました。

**工藤** 勝手に枠を広げる！そういうスタン

スでいる方が仕事は断然楽しいですよ。ちなみにどのようなきっかけで秋田に？

**末廣** 秋田に来たのは2013年4月でした。当時秋田ケーブルテレビの資本の関係もあり、前社長の松浦(現名誉顧問)から私への声掛けがありました。指令は会社を変えてくれ！ということでした。当時ケーブルテレビの放映、インターネットサービスや電話のサブスクなど、いわゆるBtoC(Business to Consumer)で年商28億くらいまで成長できました。しかし人口減少が加速する中でBtoCのマーケットは今後非常に厳しいものになることが予測できました。社長に就任してからは、本社の改築、自社株買いの推進、認可託児所の子会社設立、制作子会社の設立、ケーブルを光に変える投資(約50億)、工事の子会社設立、データセンター系企業の事業承継など、BtoC以外の収益をつくれるように様々な新分野に挑戦しました。BtoB(Business to Business)或いはBtoG(Business to Government)にチャレンジし、知的財産権やイノベーションなどで増収増益ができるよう試行錯誤しながら積極的に挑戦してきました。そんな中インバウンドで海外に地方をPRする総務省の補助事業に挑戦するチャンスをつかみました。いわゆるBtoGです。中身はタイ、ベトナム、台湾などから、秋田に観光で来ていただけるよう推進する事業でした。当初は秋田の温泉、

雪、桜、日本酒、お米などを一生懸命PRしていましたが、中々うまくいきませんでした。うまくいかない理由は意外にシンプルで、これらのコンテンツは日本中の地方都市が同じように打ち出しているからで、外国人観光客から見ると特徴的ではないということ。要するに日本中に飽和されているコンテンツだと気づきました。例えば私たちが韓国の都市と言えば、ソウル、プサン、チェジュくらいは思いつきますが、それ以外の都市は中々すぐには出てこないのが普通です。これを日本に置き換えると、東京、京都、北海道あたりはすぐに出てくるかもしれませんが、秋田をはじめそれ以外の地方都市の名前は簡単には出てこないのが普通だろうと思います。そもそも今のままでは外国人観光客に秋田は見つけてもらえないと感じました。そこで色々考えた末に秋田犬にたどり着きました。秋田犬は世界でも非常に有名な犬種です。例えば、もしヨーロッパのあるところにセントバーナードという名前の地方があり、仮に、その地方がセントバーナード犬の故郷とすれば、ヨーロッパを訪れた犬好きのツアー客はちょっと一泊二日でその地方に寄ってこうなんて考えるだろうなと想像した訳です。その後、私たちが秋田のインバウンドコンテンツとして推し続けているのが秋田犬です。秋田犬というブランドは秋田にとってとてもポテンシャルの高い大きな財産だと感

あきたBizフォレストTOPインタビューは、秋田の起業家と企業環境を応援することを宣言いただいた100名以上の経営者の皆様を中心に、起業家に役立つ話題と起業家へのメッセージを対談形式でまとめたものです。

じています。2015年に秋田犬を正社員として迎え入れ、今では13頭になりました。その後2022年に、ご縁があって秋田犬のもうひとつの故郷、ハチ公で有名な渋谷に秋田を世界に売りこむための「ハチふる SHIBUYA meets AKITA」をオープンさせました。毎日のように外国人をはじめ多くのお客様に訪れていただいています。今は「繋がる楽しさ広がる暮らし秋田とともに未来を創造」という企業理念に基づき秋田を軸に色々な活動を展開しています。

**工藤** 今年はハチ公生誕100周年なので、より一層に秋田犬が世界に羽ばたいてくれたらいいですね。ところでどうしてそこまで秋田にこだわるのでしょうか？

**末廣** 県外企業が保有していた株を自社株買いしたところ、ある方に「これでやっと秋田ケーブルテレビも外資じゃなくなったね。」と言われたときに、その言葉をものすごくインパクトのある表現として受け止めました。地元の人はそういうとらえ方をしているのか？と新鮮でした。その時から今まで以上に秋田を強く意識するように、またしなければならぬと一層思うようになったのかもしれない。

**工藤** あらためて約10年、本当に色々なことに挑戦してきたという印象ですね。

**末廣** 会社のサステナブルを考えた時に、我が社の経営的には今この時に挑戦していく、布石を打っていくことがとても重要な時期だと思っていました。

**工藤** 末廣社長からみる現状の経営課題とは何でしょうか？

**末廣** 人材成長と社風づくりでしょうか。社員には常々もっと遊び心を大切にしながら仕事をしてほしいと思っています。決められた枠の中から少し外にはみ出す社員が増えたら、或いはもっと尖った社員が増えたら、もっともっと毎日の仕事も楽しいはずだし、もっともっと面白い会社になれるはずだと思います。「こうでなければならない」という固定概念にとらわれず、多様さを大切にしながら、たくさんの経験がしやすい社風や環境づくりができればと思っています。「MUST」より「MAY」を大切に。そんな会社にしたいですね。

最後に社長の趣味や好きなことを聞いてみました。

### 自分自身の好奇心を追い求める

公私に関わらずですが、自分自身の好奇心を追い求めること。が好きなのかな？と思います。とにかく好奇心が旺盛なので、「おもしろそうやな」と思うと、まずは行ってみる、試してみる、そのうちワクワクしてくると、しほいに「やってみようや」になるので周りは大変？なのかな？どうなんだろう？ただ自分自身の好奇心を考えて、想像して、時に妄想して、ワクワクしながら実現するのは絶対に楽しいことだと思いませんか？と語る、子供のような無邪気な笑顔が印象的でした。私も好奇心を探求しながらワクワクするのが大好きなので、いくつになってもいつまでも、末廣社長のようにあり続けたいと思いました。

本日は貴重なお時間とお話しを本当に有難う御財増した。

インタビュー

合同会社ジェグルス(共同事業体ジェイワン) アントレプレナーコンシェルジュ 工藤 実

ライター J-MOTHERS 藤田 幸

企画 共同事業体ジェイワン(秋田市ビジネススタートアップ支援事業)

